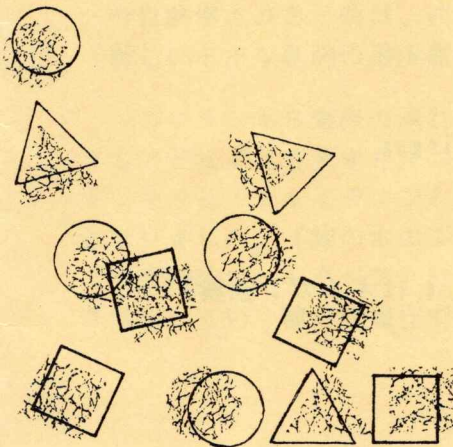
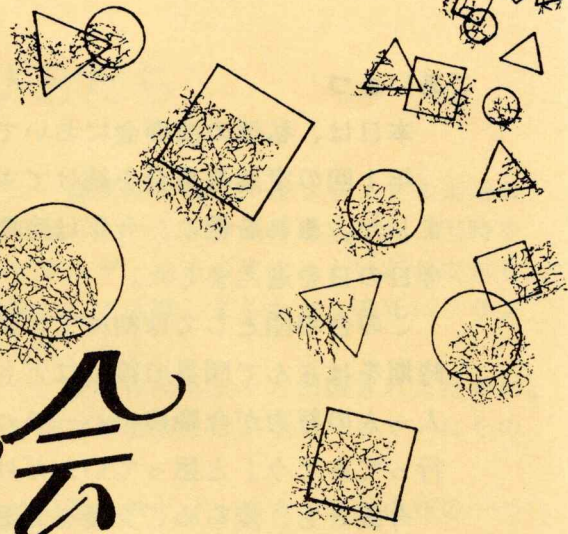
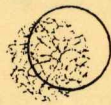


第1回

東京アマデウス合唱団

春の 小演奏会



1990年5月27日(日) 午後5時開演

石橋メモリアル・エオリアンホール (小ホール)

ごあいさつ

本日は、私達の演奏会においでくださいます、ありがとうございます。

年1回の定期演奏会を続けてきて、昨年秋には第10回の演奏会を開くことができました。それを機に、今年は定期演奏会とは別に春にも小さなコンサートをと考え、今日の日を迎えました。

この合唱団としては初めての試みですが、練習期間が短く、また年度の切り替え時期をはさんで団員の移動などもあり、思ったよりきびしいものになりました。一人一人の努力が今晚良いハーモニーをつくり、皆様に「また次の演奏会にも聴きに行ってみよう」と思っていたいただければ幸いです。

今後とも、変らぬご支援をお願いいたします。

東京アマデウス合唱団 団長
窪田 玲子

プログラム

- | | |
|---|---|
| 1. Hans Leo Hassler
ハンス・レーオ・ハスラー | Sieben Lieder
七つの歌 |
| 2. Andrea Gabrieli
アンドレア・ガブリエーリ | Settimo Tono Intonation e Ricercare
第七旋法によるイントナツィオンとリチェルカーレ |
| 3. Girolamo Cavazzoni
ジローモ・カヴァツォーニ | Hymnus
四つの讃歌 |
| 4. Jan Pieterszoon Sweelinck
ヤン・ピエテルスゾーン・スウェーリンク | Oder Een Linde Groen
緑の木の下で
Fantasia Chromatica
半音階的ファンタジア |

< 休憩 >

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------------|
| 5. Josquin des Prez
ジョスカン・デ・プレ | Missa Pange Lingua
ミサ パンジェ・リングァ |
|-----------------------------------|------------------------------------|

(2. 3. 4. はオルガン独奏)

今日演奏されたひとたち

ジョスカン・デ・プレ (1440頃～1521) は、ポリフォニー様式を中心とするフランドル楽派の最大の作曲家であるばかりでなく、ルネッサンス音楽の規範ともいえる作風を確立した、当時を代表する音楽家として知られています。ベルギーに近いピカルディ地方の生まれといわれており、若い頃から40年以上にわたってイタリアで歌手及び作曲家として活躍しましたが、晩年はフランドル地方コンデの大聖堂主任司祭に就任し、この地で没しています。

当時、イタリアのベルトリッチが楽譜印刷術を発明して、彼の作品も次々と出版されたために、その音楽も広く一般に愛好され、存命中から非常に高い評価と尊敬を受け、全ヨーロッパにその名が知られていました。

ミサ「パンジェ・リングァ」は1539年ニュルンベルクで出版されたジョスカン晩年の作の一つです。グレゴリオ聖歌の「パンジェ・リングァ (舌よ歌え)」の旋律が元になっており、この聖歌の旋律が4つの声部すべてに用いられ、多様な変化を見せながら全曲を流れて、全体の有機的統一を作り上げています。

さて、同じくフランドル楽派の代表的作曲家アドリアン・ウィラールト (1490頃～1562) は、1527年、当時文化・経済がともに栄えていたヴェネツィアのサン・マルコ大聖堂の楽長に就任し、2つの合唱隊を協奏させ壮麗な響きを空間に満たす二重合唱の手法を作り出しました。イタリアの響きとフランドルのポリフォニー、さらにフランス・シャンソンの手法が融合され、壮麗なヴェネツィア楽派の音楽が創り出されたのです。

この楽派における代表的人物として、アンドレーア・ガブリエーリ (1510頃～1586頃) とその甥ジョヴァンニ・ガブリエーリ (1553頃～1612) がいます。アンドレーアのオルガン音楽はトッカータやイントナツィオンといった即興的楽曲とリチェルカーレやカンツォーナという模倣様式の楽曲があり、端正な構成美を備えています。

ジローラモ・カヴァツォーニ (1510頃～1565以降) もやはりヴェネツィア楽派の人で、マントヴァ公のもとでオルガニストとして仕えていました。「4つの讃歌」は、人々に信仰の糧として歌い親しまれてきた讃美歌をオルガン用に編曲したものです。

アンドレーア・ガブリエリの弟子にハンス・レーオ・ハスラー (1564～1612) がいます。彼は1564年ニュルンベルクに生まれ、20才の時に音楽の修行のためにヴェネツィアへと赴き、そこでガブリエリに師事しました。その後、1586年にフッガー家の宮廷オルガニストとなりましたが、1601年に故郷ニュルンベルクに帰国、南ドイツ地方の代表的音楽家として活躍しました。

彼はヴェネツィア楽派の影響を強く受けていますが、その作品にはさらに南ドイツ地方特有の明るさ、軽快さが加わって日常生活の喜びに満ちたものになっています。

今日演奏される7曲は、彼の代表的作品集である「新しいドイツ歌曲集」(1596年 1,5,7曲)、「新しいドイツ歌曲の遊歩庭園」(1596年 2,3,4,6曲)から取られています。

一方フランドル楽派の流れでは、ヤン・ピエテルスゾーン・スウェーリンク (1562～1621) がアムステルダムで大オルガニストとして活躍しています。彼の弟子にはザムエル・シャイトやハインリッヒ・シャイデマンといった優れたオルガニスト達があり、北ドイツのオルガン音楽の基となりました。「緑の木の下で」は、当時はやっていた同名の歌をもとにした変奏曲。そして、「半音階的ファンタジア」は、半音階のテーマに様々な対旋律を重ねながら壮大なクライマックスに達していく彼の代表作です。

プロフィール

指揮

斎藤 明夫 東京バッハアカデミー講師、芸大バッハカンタータクラブ演奏委員長、ヴォイス・ラボ所属。1987年11月より当合唱団の指導にあたっている。

オルガン

水野 克彦 ピアノ伴奏、オルガン、通奏低音の他、合唱指導、作曲と幅広く活躍。1987年11月より当合唱団のピアノ伴奏を務めている。

団員名簿

ソプラノ

金谷美智子	狩野 直子	金城永未子	窪田 玲子	蔵並 雅美
小林 真子	鈴木奈々子	鈴木 真澄	須藤佳代子	吉田えみ子
吉野みどり				

アルト

伊藤 正子	井上やす子	大岩 幸子	川島 淳子	重泉 秀子
辻村 順子	長谷川敦子	原田 淑子	平野 玲子	宮崎 米子
山腰くるみ				

テノール

伊原 宏	加生 信広	片岡 繁	中屋 哲夫	古沢 忠久
吉田 一郎				

バス

落合 良式	小松 捷利	佐久間雄二	竹内 智之	根本 剛
野口 碩	橋本 克久	山下 敬之		

* * 歌詞対訳 * *

Josquin des Prez MISSA "Pange Lingua"

I. KYRIE

Kyrie eleison.
Christe eleison.
Kyrie eleison.

II. GLORIA

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus. Rex caelestis.
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus, Tu solus Dominus,
Tu solus Altissimus. Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.

III. CREDO

Credo in unum Deum.
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri:
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines
et propter nostram salutem descendit de caelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine:
et homo factus est.

I. キリエ

主よ、あわれみたまえ。
キリストよ、あわれみたまえ。
主よ、あわれみたまえ。

II. 神に栄光あれ

天のいと高きところには神に栄光、
地には善意の人に平和あれ。
われら主をほめ、主をたたえ、
主をおがみ、主をあがめ、
主の大なる栄光のゆえに、感謝したてまつる。
神なる主。天の王。
全能の父なる神よ。
主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。
神なる主、神の小羊、父の御子よ。
世の罪を除きたもう主よ、われらをあわれみたまえ。
世の罪を除きたもう主よ、
われらの願いを聞き入れたまえ。
父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ。
主のみ聖なり、主のみ王なり、
主のみいと高し、イエス・キリストよ。
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに。
アーメン。

III. われは信ず

われは信ず、唯一の神。
全能の父、天と地、
見ゆるもの、見えざるものすべての造り主を。
われは信ず、唯一の主、神の御ひとり子、
イエス・キリストを。
主はよろず世のさきに、父より生まれ、
神よりの神、光よりの光、
まことの神よりのまことの神、
造られずして生まれ、父と一体なり、
すべては主によりて造られたり。
主はわれら人類のため、
また、われらの救いのために、天よりくだり、
聖霊によりて、
おとめマリアより御からだを受け、
人となりたまえり。

Crucifixus etiam pro nobis:

sub Pontio Pilato passus,

et sepultus est.

Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.

Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.

Et iterum venturus est cum gloria

judicare vivos, et mortuos:

cujus regni non erit finis.

Et in Spiritum Sanctum, Dominum, et vivificantem:

qui ex Patris, Filioque procedit.

Qui cum Patre et Filio simul adoratur,

et conglorificatur:

qui locutus est per Prophetas.

Et unam, sanctam, catholicam

et apostolicam Ecclesiam.

Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.

Et expecto resurrectionem mortuorum.

Et vitam venturi saeculi.

Amen.

IV. SANCTUS

Sanctus, Sanctus, Sanctus,

Dominus Deus Sabaoth.

Pleni sunt caeli, et terra gloria tua.

Hosanna in excelsis.

V. BENEDICTUS

Benedictus qui venit in nomine Domini.

Hosanna in excelsis.

VI. AGNUS DEI

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,

miserere nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,

miserere nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,

dona nobis pacem.

ポンシオ・ピラトのもとにて、

われらのために十字架につけられ、

苦しみを受け、葬られたまえり。

聖書にありしごとく、三日目によみがえり、

天にのぼりて、父の右に座したもう。

主は栄光のうちに再び来たり、

生ける人と死せる人とを裁きたもう。

主の国は終わることなし。

われは信ず、主なる聖霊、生命の与え主を。

聖霊は父と子よりいで、

父と子とともに拝み、

あがめられ、

また預言者によりて語りたまえり。

われは一・聖・公・

使徒継承の教会を信じ、

罪のゆるしのためなる唯一の洗礼を認め、

死者のよみがえりと、

末世の生命とを待ち望む。

アーメン。

IV. 聖なるかな

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、

万軍の神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

天のいと高きところにホザンナ。

V. ほむべきかな

ほむべきかな、主の名によりて来たる者。

天のいと高きところにホザンナ。

VI. 神の小羊

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、

われらをあわれみたまえ。

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、

われらをあわれみたまえ。

神の小羊、世の罪を除きたもう主よ、

われらに平安を与えたまえ。

* * 歌詞対訳 * *

Hans Leo Hassler Sieben Lieder

I. NUN FANGET AN

Nun fanget an ein guts Liedlein zu singen,
last Instrument und Lauten auch erklingen,
lieblich zu musicieren,
will sich jetzt und gebüren,
drumb schlagt und singt, das als erklingt,
helfft unser Fest auch zieren.

さあ、楽しい歌を歌おう
楽器も声も響かせよう
素晴らしい演奏をしよう
今や、その時なのだから
さあ、楽器をたたいて歌おう、響き渡るまで
この私達のお祭りを盛り上げよう

II. ALL LUST UND FREUND

All Lust und Freund die Lieb mir geit,
für Gut und Gelt auff diser Welt, fa la la la,
wan ich allein kan bey dir sein,
sag ich ohn Scheu, mich dunkt ich sey,
merk mich mit Fleiss, im Paradeiss,
fa la la la.

君の愛は私にとって望みと喜びそのもの
地上の全財産だ
たった一人で君のそばに居ることができると
物おじせず、そう言える
天国へ行ってもそばに居ておくれ

III. ACH, LIEB, HIER IST DAS HERTZE

Ach, Lieb, hier ist das Hertze
das kain Mitleiden tregt mit meinem Schmerzte,
verwundt es doch so harte,
damit ich nit durch sie dess Tods gewarte.

あぁ、愛する人よ、あなたの心は
私の心の痛みに気がつかないのか
深く傷つけないでおくれ
そんなことをされれば、私は死んでしまう

IV. ACH, SCHATS, ICH SING UND LACHE

Ach, Schats, ich sing und lache,
aber mit Schmerzte, weint mein entzündtes Hertze,
wann mein stätiges Weinen so starck nit weret,
allbereit war mein Hertz durchs Feur verzehret.

あぁ、最愛の人よ、私は歌い、そして笑う
だが、燃える心は痛みに泣いているのだ
絶え間ない涙が心の炎をしずめなければ
私の心は炎で燃え尽きてしまっていたらう

V. FEINSLIEB, DU HAST MICH GFANGEN

Feinslieb, du hast mich gfangen,
mit dein zwey Äuglein schön,
nach dir steht mein Verlangen,
von dir kan ich nit stön:
main Schatz, dich bit ich eben,
wölst mich auch nit verlahn,
dich allein liebt mein Hertz,
sag ich ohn allen Schertze,
dein Diener will ich sein bis an das Ende mein.

いとしい人よ、君は私を魅了した
その2つの綺麗な目で
君こそ、私の愛する人だ
君から離れられない
最愛の人よ、お願いだから
私を見捨てないで
私の心は君だけを愛している
本気で言っているのだ
一生涯君のしもべでいたいと

VI. MIT DEIN LIEBLICHEN AUGEN

Mit dein lieblichen Augen
thust du mein jungs Hertz plagen,
Wolt Gott es solt geschehen,
dass ich dich stets köndt sehen.

君はその愛らしい目で
私の若い心を悩ます
神よ願わくば
いつも君を見ていることができますように

VII. DAS HERTZ THUT MIR AUFFSPRINGEN

Das Hertz thut mir aufspringen,
mein Mund vor Freuden singen,
wann ich kumm zu dem liebsten Bulen meine,
freundlich mit ir zu schertzen,
bey ir alleine, die ich lieb von Hertzen.

私の心ははずみ
私の口は歓びに歌う
最愛の人に会って
たわむれる時に
心から愛する彼女と二人だけの時に

IV. SANCTUS

Sanctus
Domine Deus
Pleni sunt caeli
et terra gloria tua

Sanctus
Domine Deus
Pleni sunt caeli
et terra gloria tua

V. BENEDICTIO

Benedictio
In excelsis deo
Miserere nobis

Benedictio
In excelsis deo
Miserere nobis

VI. AGNUS DEI

Agnus Dei
Miserere nobis
Agnus Dei
Agnus Dei
Agnus Dei

Agnus Dei
Miserere nobis
Agnus Dei
Agnus Dei
Agnus Dei

Et in unum factus est
ex Maria Virgine
et homo factus est